Letter to the Editor

高温質量分析部会の歴史

The History of the Division of High-Temperature Mass Spectrometry

有田裕二^{1,3*}・山脇道夫^{2,3}

Yuji ARITA^{1,3} and Michio YAMAWAKI^{2,3}

¹ 高温質量分析部会・部会長 *Chair, Division of High-Temperature Mass Spectrometry*

² 高温質量分析部会・元部会長 *Former Chair, Division of High-Temperature Mass Spectrometry*

³ 福井大学附属国際原子力工学研究所 *Research Institute of Nuclear Engineering, University of Fukui*

1. はじめに

高温質量分析は、発足当時においては合金中の金属の活量等を測定する手段として冶金物理化学の有力な研究手段として期待されていた。今日では金属のみならずセラミックスなどの材料を高温にした際に発生する蒸気種や脱離ガスの質量分析を行うことによって、材料の高温での分解・蒸発・反応挙動を明らかにするための研究や、各種物質・材料の熱力学データ評価等多くの研究分野に広がっている。

2. 部会の歴史

本部会は、1980年12月10日に開催されたシンポジウム「高温質量分析の冶金物理化学への応用」（日本金属学会主催、日本原子力学会ならびに質量分析学会協賛）を契機にして、三つの学会と窯業協会（現 日本セラミックス協会）におけるこの分野の研究者を糾合し、発足に至った。発足以来の部会長は下記のとおりである。

期間	部会長名（所属機関）
1980年代前半	加藤榮一（早稲田大学）
1980年代後半	一瀬英爾（京都大学）
1990年代前半	浅野 満（京都大学）
1990年代後半	山脇道夫（東京大学）
2002～2003年度	松井恒雄（名古屋大学）
2004～2005年度	月橋文孝（東京大学）
2006～2007年度	森田一樹（東京大学）
2008～2012年度	寺井幸隆（東京大学）
2013年度	有田裕二（福井大学）

3. 主な活動概要

発足時から長らく総合討論会開催時に部会会合を開催し研究交流を続けてきたが、近年は、年1回程度研究発表会を開催している。

また、学会誌においては高温質量分析特別号を発行した（*J. Mass Spectrom. Soc.*, Vol. 47 (1999), No. 1）。本特集号には11報の論文が掲載されている。

4. 部会のこれから

エネルギー関係や先端材料分野においては高温質量分析によって得られるデータは重要であり、先端研究を支える分野としての高温質量分析も引き続き重要である。近年研究者の減少が危惧されているが、新しい視点で活性化を図っていくことを目指している。

* Correspondence to: Yuji ARITA, *Research Institute of Nuclear Engineering, Fukui University, 1-2-4 Kanawa-cho, Tsuruga-shi, Fukui 914-0055, JAPAN*, e-mail: arita@u-fukui.ac.jp

有田裕二, 福井大学附属国際原子力工学研究所, 〒914-0055 福井県敦賀市鉄輪町1-2-4

(Received October 7, 2013; Accepted October 7, 2013)